3つの生成AIで分析を加速！
大量データに潜む“不正の兆候”を見抜く

生成AIの活用で効率化！

不正調査の実務

「使いたいけれどわからない」

を解決する実践手順と思考プロセス



本書の特長



公認会計士・税理士が実際に担当した不正調査案件をもとに、**ChatGPT、Google Gemini、Claude**を活用した分析プロセスを体系的に詳説！



10,000件超の証拠書類と**約2,000件のメール**を対象にしたデータ分析により、実務で使える生成AIの活用手法を具体的に明かす！



デジタルに不安があっても安心。**専門知識を必要としない**手順・プロンプト・活用方法・思考プロセスをわかりやすく解説！

佐藤 敏郎／著

体裁　A5判/248頁
定価　4,290円（本体:3,900円＋税10%）



第4章　書類の真正性検証―プロンプト設計と1万件自動判定の実際

4.11　1万件超のAI解析結果―統計的全体像

最終的に1万件超の書類に対するAI解析が完了した。本節では、この大規模解析の統計的全体像を評述する。これらの統計データは、AI活用不正調査の規模感と有効性を示す客観的な指標として、今後の実務家にとっての参照基準となり得るものである。

⑴　判定結果の全体分布

1万件超の書類に対するAI判定の分布は、以下のとおりであった（いずれも書類単位の一次判定の集計である。関係者（人物）単位の最終判定は6.2節に示す）。判定2（黒・不整合が高い確度で確認される）：約5,300件（約52%）。判定1（グレー・疑義あるが確定に至らず）：約1,800件（約18%）。判定0（白・問題なし）：約3,000件（約30%）。判定なし・対象外：0件。

最も注目すべきは、全書類の過半数（51.9%）が「黒」と判定された点である。これは、調査対象となった書類群において、不整合が極めて広範に確認されたことを示している。ただし、「黒判定＝不整合確定」ではなく、「不整合が高い確度で疑われる」という意味であり、最終的な確定は人間による精査を経て行われる。

グレー判定（18.2%）は、追加調査の必要性を示唆する。画像の不鮮明さや書類の不足により確定に至らず、クロスリファレンスチェック（4.12節）の大半であり、クロスリファレンスチェック（4.12節）うち一部が黒に格上げされた。

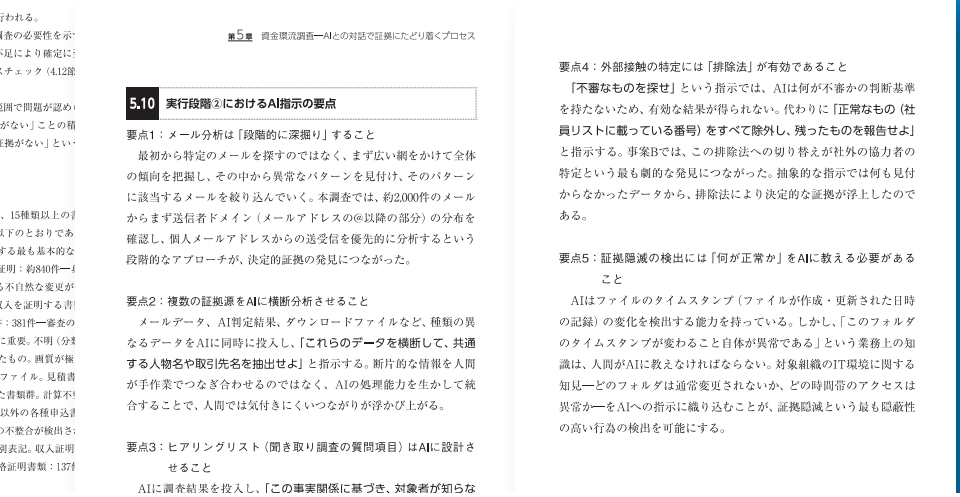
白判定（29.9%）は、検証した範囲で問題が認められなかった。ただし、白判定は「不整合がない」ことの積極的証明ではなく、「AIが検出した範囲で不整合の証拠がない」という点に留意が必要である。

図表15▶1万件超のAI解析結果（統計ダッシュボード）

⑵　書類種別ごとの分析件数

AI解析の対象となった書類は、15種類以上の書類種別に分類された。分析件数の上位15種は以下のとおりである。

1,200件―年間の収入金額を証明する最も基本的な書類。
の最も多い対象となった。資格証明：約840件―
を証明する書類。画像編集による不自然な変更が
次報酬明細：約830件―月次の収入を証明する書類。
出率が最も高かった。審査申込書：381件―審査の
載内容と証明書類の整合性検証に重要。不明（分類
が書類の種別を特定できなかったもの。画質が極
常の書類カテゴリに該当しないファイル。見積書
件―資金環流調査の端緒となった書類群。計算不
た。申込書：247件―審査申込書以外の各種申込書
件―残高計算の自動検証で多数の不整合が検出さ
表記版）：179件―収入証明書の別表記。収入証明
算すると約1,400件に達する。資格証明書類：137



第5章　資金環流調査―AIとの対話で証拠にたどり着くプロセス

5.10　実行段階②におけるAI指示の要点

要点1：メール分析は「段階的に深掘り」すること

最初から特定のメールを探すのではなく、まず広い網をかけて全体の傾向を把握し、その中から異常なパターンを見付け、そのパターンに該当するメールを絞り込んでいく。本調査では、約2,000件のメールからまず送信者ドメイン（メールアドレスの@以降の部分）の分布を確認し、個人メールアドレスからの送受信を優先的に分析するという段階的なアプローチが、決定的証拠の発見につながった。

要点2：複数の証拠源をAIに横断分析させること

メールデータ、AI判定結果、ダウンロードファイルなど、種類の異なるデータをAIに同時に投入し、「これらのデータを横断して、共通する人物名や取引先名を抽出せよ」と指示する。断片的な情報を人間が手作業でつなぎ合わせるのではなく、AIの処理能力を生かして統合することで、人間では気付きにくいつながりが浮かび上がる。

要点3：ヒアリングリスト（聞き取り調査の質問項目）はAIに設計させること

AIに調査結果を投入し、「この事実関係に基づき、対象者が知らな

要点4：外部接触の特定には「排除法」が有効であること

「不審なものを探せ」という指示では、AIは何が不審かの判断基準を持たないため、有効な結果が得られない。代わりに「正常なもの（社員リストに載っている番号）をすべて除外し、残ったものを報告せよ」と指示する。事案Bでは、この排除法への切り替えが社外の協力者の特定という最も劇的な発見につながった。抽象的な指示では何も見付からなかったデータから、排除法により決定的な証拠が浮上したのである。

要点5：証拠隠滅の検出には「何が正常か」をAIに教える必要があること

AIはファイルのタイムスタンプ（ファイルが作成・更新された日時の記録）の変化を検出する能力を持っている。しかし、「このフォルダのタイムスタンプが変わること自体が異常である」という業務上の知識は、人間がAIに教えなければならない。対象組織のIT環境に関する知見―どのフォルダは通常変更されないか、どの時間帯のアクセスは異常か―をAIへの指示に織り込むことが、証拠隠滅という最も隠蔽性の高い行為の検出を可能にする。

DAI-ICHI HOKI　第一法規
東京都港区南青山2-11-17　〒107-8560
https://www.daiichihoki.co.jp
Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

目次

“最も重要な”はしがき

第1章 不正調査におけるAI活用の潮流
— なぜ「指示」が成否を決めるのか

第2章 調査の準備
— AI活用のための環境構築とデータ基盤

第3章 調査設計とAI基盤の構築
— 3つのAIの使い分けと役割設計

第4章 書類の真正性検証
— プロンプト設計と1万件自動判定の実際

第5章 資金環流調査
— AIとの対話で証拠にたどり着くプロセス

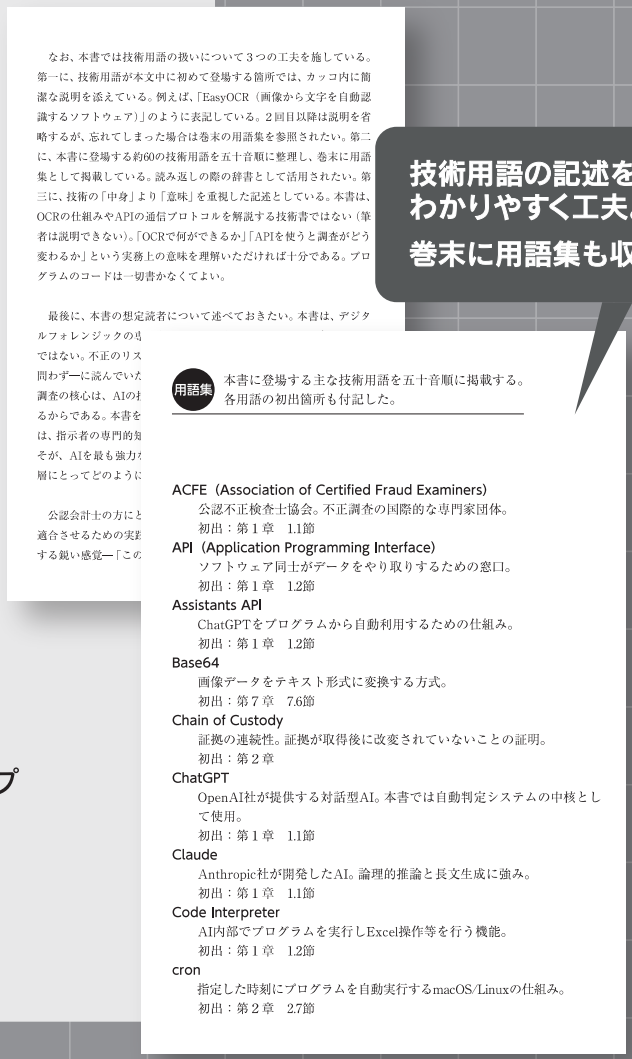
第6章 調査結果の統合と報告書作成
— AIとの協働執筆の進め方

第7章 AI活用不正調査の方法論
— 試行錯誤から得た実践知

第8章 今後の展望と実務家のためのロードマップ

補　章 その後のAIの進化と不正調査の今後
— 本調査から数ヶ月で何が変わったか

用語集



なお、本書では技術用語の扱いについて３つの工夫を施している。第一に、技術用語が本文中に初めて登場する箇所では、カッコ内に簡潔な説明を添えている。例えば、「EasyOCR（画像から文字を自動認識するソフトウェア）」のように表記している。２回目以降は説明を省略するが、忘れてしまった場合は巻末の用語集を参照されたい。第二に、本書に登場する約60の技術用語を五十音順に整理し、巻末に用語集として掲載している。読み返しの際の辞書として活用されたい。第三に、技術の「中身」より「意味」を重視した記述としている。本書は、OCRの仕組みやAPIの通信プロトコルを解説する技術書ではない（筆者は説明できない）。「OCRで何ができるか」「APIを使うと調査がどう変わるか」という実務上の意味を理解いただければ十分である。プログラムのコードは一切書かなくてよい。

最後に、本書の想定読者について述べておきたい。本書は、デジタルフォレンジックの

ではない。不正のリス

問わず一に読んでいた

調査の核心は、AIの

るからである。本書を

は、指示者の専門的知

そが、AIを最も強力

層にとってどのように

公認会計士の方に

適合させるための実

する鋭い感覚—「この

技術用語の記述をわかりやすく工夫。
巻末に用語集も収録！

用語集　本書に登場する主な技術用語を五十音順に掲載する。各用語の初出箇所も付記した。

ACFE（Association of Certified Fraud Examiners）
公認不正検査士協会。不正調査の国際的な専門家団体。
初出：第１章　1.1節

API（Application Programming Interface）
ソフトウェア同士がデータをやり取りするための窓口。
初出：第１章　1.2節

Assistants API
ChatGPTをプログラムから自動利用するための仕組み。
初出：第１章　1.2節

Base64
画像データをテキスト形式に変換する方式。
初出：第７章　7.6節

Chain of Custody
証拠の連続性。証拠が取得後に改変されていないことの証明。
初出：第２章

ChatGPT
OpenAI社が提供する対話型AI。本書では自動判定システムの中核として使用。
初出：第１章　1.1節

Claude
Anthropic社が開発したAI。論理的推論と長文生成に強み。
初出：第１章　1.1節

Code Interpreter
AI内部でプログラムを実行しExcel操作等を行う機能。
初出：第１章　1.2節

cron
指定した時刻にプログラムを自動実行するmacOS/Linuxの仕組み。
初出：第２章　2.7節

お申し込みはコチラ
<クレジットカードでもお支払いいただけます>
→ 第一法規ストア 検索 CLICK!

キ リ ト リ 線

申 込 書 第一法規刊〉

書名	価格	部数
生成AIの活用で効率化！不正調査の実務 ～「使いたいけれどわからない」を解決する実践手順と思考プロセス～ [101287]	定価4,290円（本体3,900円＋税10%）	部

＊弊社宛直接お申し込みいただく場合、一回のご注文でお届け先が一箇所、お買い上げ合計金額5,000円(税込)以上のご注文は、国内配送料サービスといたします。また、お買い上げ合計金額5,000円(税込)未満のご注文については、国内配送料550円(税込)にてお届けいたします。
＊消費税は申込日時の適用税率に依ります。

◎上記のとおり申し込みます。代金については、次に示す方法にて支払います。
＊現在、弊社とお取引のないお客様につきましては、代金引換にてお支払いをお願い申し上げます。
(いずれかを✓で選択ください。)　□代金引換により支払います。　□現品到着後請求書により支払います。

＊代金引換手数料について
一回あたりのご購入金額
（商品の税込価格＋送料）の合計が
1万円以下の場合、330円（税込）
3万円以下の場合、440円（税込）
10万円以下の場合、660円（税込）
※送料・代引手数料を含む合計金額は、商品のお届け時に配送業者に現金でお支払いください。その際、クレジットカードはご利用いただけません。

年　月　日

ご住所　〒　—

事務所名　□公用 □私用

フリガナ
ご氏名　様 ㊞

TEL　—　—

E-mail　@

お客様の個人情報の取扱いについて
お客様よりお預かりした個人情報は、納品や請求書等の発送・アフターサービス、弊社製品・サービスのご案内などの目的のために利用させていただきます。また、お客様の個人情報は、弊社ホームページに掲載のプライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。なお、個人情報についての照会、修正・削除・利用停止を希望される場合、その他お問い合わせにつきましては、お問合せフォーム(https://www.daiichihoki.co.jp/support/contact/contact.php)かフリーダイヤルにてご連絡ください。フリーダイヤル TEL.0120-203-696 FAX.0120-202-974

取扱い
この申込書は、ハガキに貼るか、このままFAXで下記宛お送りください。

■宛先
〒107-8560
東京都港区南青山2-11-17
第一法規株式会社
FAX. 0120-302-640

書店印